

## 静岡大学学術院理学領域数学系列教員公募

1. 公募人員 准教授 1 名
2. 専門分野 数学（幾何学、又はその関連分野）
3. 採用予定 令和 7 年 4 月 1 日
4. 応募資格
  - (1) 博士あるいは **Ph.D** の学位を有するか、もしくはそれらと同等な学識・研究業績を有する方
  - (2) 大学院（修士課程及び博士課程）において研究指導を担当できる方
  - (3) 国籍は問いませんが、講義、教授会、委員会等において日本語で対応できる方
5. 担当授業科目 理学専門科目の幾何学及び共通教育・理学部・大学院における関連科目とその演習のうち、いくつかの科目及び演習
6. 提出書類
  - (1) 履歴書（写真貼付）

注 1：産前、産後休暇又は育児休業取得による研究中断期間に対して考慮を希望される場合は、その旨記載してください。

注 2：本学では、令和 4 年 1 月 22 日付け文部科学省高等教育局長通知に基づき、学生に対するセクシュアルハラスメント・性暴力等を原因とする懲戒処分歴等の確認を行いますので、必ず「賞罰・処分歴等」欄のある履歴書により提出をお願いします。（項目が網羅されていれば任意の様式でも可）

「賞罰・処分歴等」欄には、刑事罰のみでなく、過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分等を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。

なお、採用後、経歴詐称が判明した場合は、懲戒解雇等の対象となりますので、提出の際は、ご留意願います。
  - (2) 研究業績のリスト（主なもの（5 編以内）について別刷りまたはコピーを添付すること）
  - (3) 従来の研究の概要と将来の研究計画（A 4 版 2 枚以内、研究分野を明記）
  - (4) 教育・研究指導についての抱負（A 4 版 1 枚以内）

- (5) 外部資金（科研費など）の獲得状況
- (6) 応募者について問い合わせできる方2名の氏名と連絡先
- (7) 連絡先（電子メールのアドレスや電話番号などを明記）
- 7. 応募期限 令和6年6月28日（金）必着
- 8. 書類送付先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学大学院理学領域数学系列 鈴木 信行

封筒には「数学教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。なお、ご提出いただいた資料は、本公募の審査以外の目的で使用されることはありません。また、審査終了後、適切に処分いたします。

- 9. 選考方法 書類審査 令和6年7月（予定）  
面接審査 令和6年8月～9月（予定）

注3：面接審査は、書類審査の合格者のみ対象とし、旅費は支給しません。

注4：海外在住者については、Zoom等を用いたオンラインでの面接審査を行います。

#### 10. 問い合わせ先等

静岡大学大学院理学領域数学系列 系列長 鈴木 信行

Tel: 054-238-4729

e-mail: suzuki.nobuyuki [at] shizuoka.ac.jp

〔数学科のホームページ〕 <https://wwp.shizuoka.ac.jp/sci-math/>

#### 11. その他

- (1) 静岡大学は、静岡大学男女共同参画憲章の基本方針に基づき、男女共同参画や女性教員の採用を推進しています。採用に当たって、業績及び人物評価において同等と認められた場合には、女性を優先します。

＜静岡大学における男女共同参画の推進＞

静岡大学は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を歓迎します。

本学では、子育てや介護に関して様々な支援制度を設けております。詳

細は男女共同参画推進室 Web サイト  
(<https://www.sankaku.shizuoka.ac.jp/>) をご覧いただくか、男女共同  
参画推進室 ([takenoko@adb.shizuoka.ac.jp](mailto:takenoko@adb.shizuoka.ac.jp)) までお問合せください。

- (2) 教育研究両面での国際化の進展を図るため、採用に当たって、外国籍の方又は外国で学位を取得した方を優先します。
- (3) 研究業績の審査において、産前、産後休暇又は育児休業取得による研究中断期間がある場合には、応募者の申し出により考慮します。
- (4) 給与は年俸制を適用します。給与と各種手当（扶養手当、管理職等手当、住居手当、通勤手当、特殊勤務手当、時間外労働手当、深夜労働手当等）は、静岡大学の給与規程に基づき支給されます。なお、赴任に伴う旅費は、別規程に基づき、支給要件を満たした場合に支給されます。
- (5) 静岡市またはその近辺に居住できる方が望ましい。
- (6) 本領域では、若手研究者の育成を重視し、これから新たな研究の開拓を目指す、将来性のある研究者の応募を期待します。